



代表理事組合長

いわたけしげあき  
岩竹重城

## 新TMR飼料を核に組合員貢献と目指す

平成二十六年の年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。昨年は当組合の事業運営等に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年はアベノミクスや円安等によって配合飼料や輸入粗飼料、そして原油価格高騰等から、畜産農家は大変厳しい経営を余儀なくされ、現状もその状況が続いております。

昨年十月には、飲用乳価が一キログラムあたり五円の値上がりがありました。中国生乳販売農業協同組合連合会による生乳用途別取引実績からして、プール乳価は好条件であっても三円二十銭程度の値上げにしかならず、当組合が主張してきた十五円の乳価実現には程遠い結果となりました。

今年の円相場を予測する経済専門家

は、一ドル百七円から百十五円台と予測し、加えて四月の消費税率5%から8%への引き上げは、更なる厳しい酪農経営を予感させ、廃業や生産基盤の弱体化を懸念しております。

こうした中であって、当組合では今年三月のTMRセンターの統合整備と稼働をめざした事業にあたっております。併せて、輸入粗飼料に左右されない良質で安価なTMR飼料造りを目的に、関係する農業生産法人等に飼料稲確保のご相談を申し上げます。次年度に向けた行動も行ってまいります。現状を見据え、安価で良質な飼料供給は組合の最大の使命と考え、組合員の皆様への新TMR飼料供給を通じて、酪農経営の安定と生産意欲の向上に努めて参りたいと考えております。この二月には組合員の皆様に対する新TMR飼料の

説明会を開催し、ご説明申し上げますので、是非ご出席下さいますようお願い致します。なお、これらの指導面においては上部組織との連携を図る中で指導体制を確立して参ります。

TPP交渉に関しては、日本はコメや乳製品等の重要五項目の関税撤廃の例外措置を主張しておりますが、オバマ大統領は四月に日本を含めたアジア歴訪を予定し、この二月、三月には大きな山場が来るのではないかと思っております。昨年の総会決議に基づき「TPP交渉参加・断固反対」の意志を貫き、日本農業を守るためにJAGループをはじめ関係団体と共に行動を展開して参ります。

今年「第七次中期三か年計画」の策定にあたって組合員をはじめ役員の方々の積極的な方向付けを頂き、平成六年の広酪発足から二十周年目を迎える節目の年となります。

こうした状況下にあります、本年も「組合員のための組合」であることを基本に置き、役員一同、一丸となつて努力して参りますのでご支援ご協力の程宜しくお願い致します。



代表理事専務

鈴木道弘  
すずきみちひろ

## 四つの重点項目から 運営と指導の充実を目指す

あけましておめでとうございます。  
今年も、どうぞ明るい穏やかな飛躍の一年でありますよう切に願う  
ものです。

酪農を取り巻く環境はいよいよ不  
透明感を増し、予断を許さない状況  
と考えております。そのため①新T  
MRセンターの成功と発酵TMRの  
普及、②乳質(体細胞)改善、③経営  
不振組合員の支援、④組合の内部改  
革の四項目を重点的に有機的なつな  
がりを大切にして運営、指導にあ  
たって参ります。

酪農を取り巻く環境はいよいよ不  
透明感を増し、予断を許さない状況  
と考えております。そのため①新T  
MRセンターの成功と発酵TMRの  
普及、②乳質(体細胞)改善、③経営  
不振組合員の支援、④組合の内部改  
革の四項目を重点的に有機的なつな  
がりを大切にして運営、指導にあ  
たって参ります。

広略は合併二十周年を迎える節目  
の年であり、組織として目標を共有  
し、一丸となってぶれることなく目  
的を達成する一年としたいもので  
す。

本年も組合員、関係機関の皆様  
のご活躍とご健康をお祈りし、新年の  
ご挨拶と致します。

### ○今月の表紙

▼本誌「新年号」の表紙写真は、国営備北丘陵公園(庄原市)を会場に昨年十一月十六日から本年一月五日を期間として開催されたイルミネーションをショットした。「ウインターイルミネーション2013」のメインテーマは、「LOVE」。

▼撮影日は一月二日。当日は県外から帰省されたお子さん連れの家族やカップルで賑わい、大切な家族、友人、恋人と一緒に・・・愛することを考えながら、幸せな時間を過ごされたに違いない。

▼家族に誘われ、余り気乗りしない気持ちで数年振りにイルミネーションを鑑賞したが、会場に入るなり、以前にも増してその電飾・規模の大きさに圧倒された。気持ちは童心に戻り、目も輝き一番楽しんだのは自分自身だったのかもしれない。様々なイルミネーションで彩られた造形を撮影しようと一眼レフのシャッター音を響かせたが、三脚を忘れてしまい。ピンぼけが多数のありさま・・・(残念)

▼早くも、今年の年末に開催されるイルミネーションでリベンジを誓った。

▼寒い中、施設内で食した「いちごぜんざい」は格別で幸せな気分に戻った。

(撮影 A・N)



# あけまして おめでとうございます

役員の午年に思うメッセージ  
今年一年、  
宜しくお願いします！



■理事 隅屋寒三

午年を迎えた今年。回復傾向の国内経済がもたらす消費構造の変化に期待しつつも、県内の酪農生産構造は後継者不足が招く高齢化の進行とコストの増加を背景に脆弱化が過去にも増して危惧されます。「組合員の皆様に支えられる広酪」であることは勿論ですが、一方で「組合員の皆様を支える広酪」でもありません。「人馬一体」の如く、過去にも増して組合員の皆様に寄り添い行動し、経営の安定に貢献する広酪を実感していただけるよう一理事として組織運営に尽力して参る所存であります。



■理事 温泉川寛明

今年も昨年同様に円安による飼料の高位安定した厳しい年になります。自給飼料・自家育成をして、健全な酪農経営を実践しましょう。頑張るしかない！



■理事 川角晴俊

農業政策が大きく変わり、先行きが不透明な状況にあります。こういう時こそ基本に戻り、育成牛や自給粗飼料を確保し、足腰の強い酪農を目指していく必要があると思います。組合員が安心して酪農経営が出来るよう努力したいと思っております。



■理事 柿原徳則

アベノミクス・TPP交渉の行方など、厳しい情勢下ですが自分たちの城は自分たちで守らなければなりません。皆さまと共にこの難局を乗り切るために英知を結集すべきと考えます。この一年皆さんとひざめ(議論)高らかに走りましょう。



■理事 大上浩也

昨年からの円安の影響で、生産費全般において高止まりの状況が続く酪農を取り巻く環境が益々厳しさを増して参りました。皆様の日々の努力が報われるよう生産者団体として尽力して参りたいと思っております。



■理事 河上康則

昨年迄の円安による飼料等の値上がりで酪農経営は規模の大小にかかわらず疲弊するばかりです。このような状況での酪農及び組合の継続は大変であります。皆様と共に知恵を出し合いながら努力して参りたいと思えます。



■理事 三浦貴美子

飼料高騰・T P Pの影響、高品質な生乳生産、T M Rセンターの運営など多くの課題がある中で、生乳五円の値上げは(実質三円程度)実感出来ません。その他の問題も多い今、酪農生活の環境が少しでも良くなることを皆さんと一緒に目指せたら良いと思えます。



■理事 沖 正文

様々な環境・政治要因に左右される酪農産業を足腰の強い産業にしたいと思えます。組合員の求める組合組織とは何か。今年、長期的に何をすべきかをしっかりと見極めていきます。ご協力宜しくお願いします。



■代表監事 池田道明

今年度はT M Rセンターが再生します。酪農で利益を上げる近道は乳価を上げるか、乳量を上げて乳飼比を下げる事です。経費の半分、あるいはそれ以上が飼料費です。広酪T M Rを有効利用して乳量確保、乳飼比低下、そして、牛の事故も改善しウマく行く年にしましょう。



■理事 和田慎吾

厳しい酪農情勢が続くことは間違いありません。経営者・後継者は将来の夢・展望を掲げて計画、実践、反省を繰り返しながら、一步一步前進する事が大切です。そんな取組の後押しが出来るよう尽力する所存です。



■理事 下岡正宏

不安要素ばかりで先行きが見えない状況が続いています。「今年こそは」と思いつつも心が折れそうになり、ついつい険しい顔で生活しがちに。辛い顔ばかりしていると良い事も逃げて行くそうです。辛い時こそ笑って、笑顔で前を向いて幸せを呼び込みましょう。



■監事 森下政憲

謹賀新年・早々モグラ(飼料費、繁殖、乳量、乳質...)叩きをやります。『酪農』を『ら苦惱』としないために。だれの責任、結局自分。広酪でハンマーの在庫管理をしようではありませんか。 「確実に、一匹づつ叩くために」



■監事 齊藤正和

経済・時代が大きく変わるような気がしますが、息切れすること無く、足を良く見て走り続けたいと思えます。組合員のための組合になるように皆さんと一緒に、この一年頑張ります。



■監事 林 智行

今年度は昨年十月の乳価値上げにも関わらず経営収支の改善効果は見えず、今年度は更なる乳価値上げの上積みを実現すべく、その活動を馬の駆けるスピードのように早期実現を目指します。